

令和4年第2回総務文教常任委員会 要点記録

開閉会日時		令和4年2月15日（火曜日）		開会	9:57		会議場所		別海町議会 委員会室2・3	
				閉会	14:22					
委員の出欠		1 番	横田 保江	出席	6 番	大内 省吾	出席	7 番	木嶋 悦寛	出席
		10 番	小林 敏之	出席	14 番	佐藤 初雄	出席			
出席説明員	総務部	総務部長		総務部次長兼総務課長		総合政策課長		ふるさと応援・情報化推進室長		
		浦山 吉人	出席	入倉 伸顕	出席	寺尾真太郎	出席	松本 博史	出席	
		財政課長		税務課長		防災交通課長		尾岱沼支所長		
		角川 具哉	出席	伊藤 輝幸	出席	麻郷地 聡	出席	福原 義人	出席	
		西春別支所長		総務課主幹		ふるさと応援・情報化推進室長代理		防災交通課主幹		
		田村 康行	出席	齋藤 陽	欠席	山田 哲哉	出席	深川 淳一	欠席	
		総務課主査		総合政策課主査		財政課主査		財政課主査		
		池田 大海	出席	大森 圭介	欠席	佐藤 貴也	欠席	戸野 晶雄	欠席	
		税務課主査		税務課主査		防災交通課主査		防災交通課主査		
		伊藤 武史	欠席	高橋 克彦	欠席	武田 聖士	出席	相馬 儀彰	欠席	
		西春別支所主査								
		佐藤 政士	欠席							
	選挙管理委員会	書記長		書記						
		入倉 伸顕	出席	池田 大海	出席					
	別海消防署	別海消防署長		別海消防署副署長		別海消防署副署長兼予防課長		別海消防署警防課長		
		山田 勝人	出席	山桑 貴光	欠席	西塚 隆幸	欠席	太田 裕司	出席	
	教育委員会	教育部長		教育部次長兼生涯学習課長他		指導主幹		指導主幹		
		山田 一志	出席	石川 誠	出席	相澤 要	欠席	稲村 和典	欠席	
		指導参事		学務課長兼学校給食センター長		学校教育課長		中央公民館長		
		吉光寺 勝己	出席	宮本 栄一	出席	池田 卓也	出席	新堀 光行	出席	
		西公民館長		東公民館長		図書館長・郷土資料館長他		学校教育課主幹		
		田村 康行	出席	福原 義人	出席	堺 啓	出席	堀込 美穂	出席	
		生涯学習課主幹		中央公民館副館長		西公民館副館長		東公民館副館長		
		戸田 博史	欠席	小村 茂	出席	木戸口 誠	欠席	立澤 雅彦	欠席	
		郷土資料館主幹		学務課主査		学務課主査他		学校教育課主査		
		石渡 一人	欠席	佐藤 亮	出席	大山 晋作	出席	高津 寛人	欠席	
		生涯学習課主査他		生涯学習課主査		学校給食センター主査		図書館主査		
		上杉 大洋	出席	恒川 敦史	欠席	平下 奈津子	欠席	吉田 美奈子	欠席	
	委員外の出席		議長	西原 浩			合計		1名	
	事務局職員		主任	小野 絵里			合計		1名	
	傍聴者数		一般	0名	報道関係者	0名	合計		0名	

令和4年第2回総務文教常任委員会 要点記録

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。
委員長 7番 木嶋	9:57 開会
	出席委員5名、委員外1名、会期1日
委員長 7番 木嶋	挨拶
	【教育委員会所管事務調査】
教育部長 山田	挨拶及び概要説明
委員長 7番 木嶋	議事1 所管事務調査について
	(1) 新型コロナウイルス感染症対策について
教育部長 山田	・資料により説明
委員長 7番 木嶋	質疑
	・道から学校に対する要請の中の留守番が困難な児童の居場所確保について、触れているが、具体的な対策、準備等はされているのか。
教育部長 山田	・この部分は福祉サイドに関わる話になってくるが、例として児童館を閉館しないなどの措置であると認識している。
委員長 7番 木嶋	・放課後児童デイや児童館の会館などで対処できると思うが、留守番が困難という状況の把握方法は。
教育部長 山田	・特段、各家庭の状況を学校で確認するといった対応はしていないが、児童館等を日常的に利用している児童については確認していると思われる。まん延防止措置が適用されたことで改めて確認ということはしていない。
委員長 7番 木嶋	(4) 生涯学習センター利用運営等について
中央公民館長 新堀	・資料により説明
委員長 7番 木嶋	質疑
委員 一同	なし
委員長 7番 木嶋	(5) 図書館の利活用促進について
図書館長 堺	・資料により説明
委員長 7番 木嶋	質疑
	・コロナの影響で休館が続いているが、図書の利用人数・貸出状況は。
図書館長 堺	・1月末までの利用状況で見ると全体的に減少傾向にある。 本館 636人減、約3,600冊減 上西春別分館 125人減、466冊減 移動図書館 1,592人減、3,494冊減 移動図書館の車内は密になるため運休した期間があり、大幅減となった。
委員長 7番 木嶋	・貸出サービスについて説明願いたい。
図書館長 堺	・昨年5月に臨時休館した際には、小中学校も休校していたため郵送での貸出、一般には玄関先での来館貸出をそれぞれ実施した。また、5月は休館期間が長期となったことから団体向けの貸出も実施したが、その際は図書館側で図書を持参し巡回を行った。今回は町民対象として来館貸出を実施。郵送貸出は実施していない。2月1日から休館となったため、蔵書点検を前倒しで実施し2月8日に終了、同日から貸出サービスを行っている。2月12日までに37名の利用、137冊の貸出。
議長 西原	・生涯学習センターのホワイエの図書スペースは図書館とどのように連携していくのか。
教育部次長 石川	・図書館の本とは別物になる。ただし、ホワイエに配架する図書約2,000冊の選定は図書館司書の協力を得ながら蔵書する予定。また、図書館の図書を生涯学習センターで返却ができるようにするとの話もあったが、実施しないこととなった。
議長 西原	・連携せずに独立させる意図・目的は。どのように結論に至ったのか。
教育部次長 石川	・図書館の業務が逼迫することや、貸出を行うことにより生涯学習センター職員の業務が煩雑化する。また、図書の貸出には専用のシステムを使用しているが、データには個人情報も含まれており、そのシステムを図書館職員以外の職員が使用することはどうかとの話になり、このような結論に至った。
委員長 7番 木嶋	・図書離れが進んでいるが、ブックスタート事業など家族も含め小さい頃から図書に親しむ取組の中で、電子図書が主流になりつつあることを考えると、図書館に機能を持たせるこ

令和4年第2回総務文教常任委員会 要点記録

図書館長 堺	
	とは想像がつかないが、何かしら新しい時代へ向けての取組方は考えているのか。 ・電子図書は道内でも導入事例は少ない。紙ベースの図書も需要はあるため、それとは別に電子図書を購入することになり、コストの問題もある。現状を考えると導入することは想像できないが、コロナ禍においてはそのようなサービスがあってもいいのかなと思う。業務的な面では電子図書だと未返却に伴う督促がないので、その点はメリットとはなる。将来的には導入の話も出てくると思うが、現段階では紙ベースが主流であるため、電子図書導入の考えはない。
委員長 7番 木嶋	(6) 別海高等学校教育支援事業（寄宿舎施設等助成事業）について
学務課主査 佐藤	・資料により説明
委員長 7番 木嶋	質疑
	・年度途中での退去について、主な理由は。
学務課主査 佐藤	・理由については確認している。1年生1名、2年生1名が退去したが、1名は体調不良、もう1名は友達とバス通学をしたいとの理由。3年生は2月からほぼ授業がないため、毎年この時期には退去している。途中で退去した2名について、機会があればまた利用したい
	う意見があったことから、何か問題があつての退去ではないと認識している。
委員長 7番 木嶋	その他
教育部次長 石川	①全国中学校スケート大会の結果について
	・資料により説明
教育部次長 石川	②町スポーツ選手後援会の支援状況について
	・当初の見込みを上回る会員の増となっている。 会員数は町内外合わせて400人超、寄付は400件超、800万円超。 委員の皆様のご支援、お声かけなどの協力に対し、改めて感謝する。
学校教育課主幹 堀込	③町立学校の卒業式・入学式の日程及び対応について
	・資料により説明
委員長 7番 木嶋	教育委員会 11:02 終了 休憩
	11:14 再開
	挨拶
総務部長 浦山	【総務部（消防）所管事務調査】
	挨拶及び概要説明
総務部長 浦山	議事1 所管事務調査について
	(1) 新型コロナウイルス感染症対策について
	・資料により説明
	・町立別海病院以外で感染判明した方は町で把握できない。
委員長 7番 木嶋	・中標津町では、昨日現在139名が自宅療養中。
副委員長 14番 佐藤	質疑
総務部長 浦山	・接種券の発送の順番はどのようになっているのか。
	・ワクチンの納入計画や全体量を勘案し、高齢者から順に発送しているため、年齢により夫婦でも届くタイミングに幅が出る場合がある。また、感染拡大が懸念される業務に従事している方にも並行して発送しているため、年齢によらずともタイミングが違う場合があるのでご了承願いたい。
副委員長 14番 佐藤	・ファイザーとモデルナの2種類を交互に使用することだが、その調整の仕方は。
総務部長 浦山	・3月からは隔週で使用するワクチンを変え実施する予定。予約するタイミングでワクチンを選べないのは不安ではないかとのことで隔週という形にした。現状は2種類のワクチンが同じ配分で来ているので、どちらかを選択できるような形で進めている。最終的にはモデルナの方が多く配分されることが想定されるので、年齢の若い方はファイザーを選べない可能性もある。
議長 西原	・道が実施している自宅療養者に対しての食料品支援について、対象者へちゃんと届いているか、町が把握できる状況にあるのか。また、把握する場合はどこの担当が担うのか。
	・基本的には保健所から陽性者に対し希望をとり、食料品を宅配している。自宅待機者は対象とはならないため、市町村独自で対応しているところも出てきている。本町では具体的な計画はない。希望者の把握は保健所を経由しての確認にならざるを得ないと
総務部長 浦山	

令和4年第2回総務文教常任委員会 要点記録

		思われる。コロナ関連の事務局は福祉部・総務部合同で持っているの中でその中で協議することになる。 ・一人暮らしの方や家族全員が待機する場合など必要となる。今後また波が来る可能性はあるので、検討願いたい。 ・町立別海病院で感染確認した際に、自宅療養に関する説明はしているのか。 ・そこは保健所の管轄となる。陽性が判明した場合には医療機関から保健所に情報が届き、それを基に保健所が指導を行う。もちろん医療機関からもある程度の説明はすると思われる。 (2) 総務部所管分令和3年度実施計画事業の成果と今後の取組について ①ふるさと応援制度推進事業 ・資料により説明
議長	西原	
委員	2番	横田
総務部長		浦山
委員長	7番	木嶋
ふるさと応援・情報化推進室長		松本
委員長	7番	木嶋
委員	6番	大内
ふるさと応援・情報化推進室長		松本
委員長	7番	木嶋
ふるさと応援・情報化推進室長		松本
委員長	7番	木嶋
ふるさと応援・情報化推進室長		松本
委員長	7番	木嶋
防災交通課主査		武田
委員長	7番	木嶋
防災交通課主査		武田
委員	10番	小林
防災交通課主査		武田
委員	2番	横田
防災交通課主査		武田
別海消防署警防課長		太田
委員長	7番	木嶋
別海消防署警防課長		太田
委員長	7番	木嶋
別海消防署警防課長		太田

質疑

12:00 休憩

12:57 再開

②自主防災組織育成事業

・資料により説明

質疑

・別海市街の町内会に対する補助の実績がないが理由は。

・別海市街では連合町内会主催で年1回防災訓練を実施しており、要請があれば職員が講師として出向いている。単位町内会が独自で補助を活用するような事業が見受けられない。連合町内会では、運営に対する町の補助で費用を賄っている。

・補助実績のうち、R1中春別町内会の備考欄、ビブスとは何か。

・災害時に衣類の上から羽織るメッシュ素材のチョッキのようなもので、身につけている人の役割分担がわかるようになっている。

・R1西春別駅前連町の炊き出しについて、それに伴う米などの材料は補助対象外か。

・材料も補助対象となる。赤十字奉仕団女性部に応援を依頼し、実際に炊き出しを行う訓練を実施している。

③高機能指令センター更新事業

・資料により説明

質疑

・大きな機器更新とは別に、指令台の機能を維持するための地図データやソフトの更新、定期的なメンテナンスは実施しているのか。

・保守契約をしており、その中で実施している。

・その保守契約は指令台全体を範囲としているのか。

・そのとおり。

令和4年第2回総務文教常任委員会 要点記録

委員長	7番	木嶋
別海消防署警防課長		太田
委員長	7番	木嶋
総務課主査		池田
総合政策課長		寺尾

- ・保守料は年間どのくらいか。
- ・長期継続契約となっており、1年当たり957万円。
- （3）脱炭素社会の実現とSDGsの推進について
- ・資料により説明
- ・SDGsについて口頭説明
- ・別海町役場という1つの事業体の取組みとして見れば、脱炭素社会の実現に向けた取組をはじめ、地方自治体であるという特性からも、予算編成されているあらゆる事業は、SDGsの17の目標と169のターゲットのいずれかに見合うものではあるが、行政としてSDGs推進という大きな旗をふり、町の企業・住民全体に意識づけるまでの取組には至っていないのが現状。
- よって、この場に資料提出できるものはないが、口頭で政策推進を司る担当課としての認識、課題、今後検討すべき方向性などをお伝えする。
- ・政策担当課としての認識

SDGsの目標達成を目指すことは、その取組そのものが社会的にも環境的にも好循環し、それにより経済も回るという状況を創り出すもので、中長期を見通した持続可能なまちづくりを行うことで地方創生を実現し、地域活性化に資する効率的かつ重要な取組になると認識している。
- ・課題として捉えていること

何の目標を軸に進めるのか、そこには、町の人口規模、土地の広さ等多くの変数が多岐にわたり存在する。その多様性から判断し、別海町は「この目標達成とは親和性が高い」または、「この目標達成に向かって進むべきと言えるものが、現時点で明確にできていない。

明確にできない理由は、SDGsの大きな特徴の1つに測る＝計測することが挙げられる。SDGsの進捗を測るため、国連総会で承認されたグローバル指標は、重複を除くと232指標あり、その指標は、内閣府の自治体SDGs推進評価・調査検討会において、自治体で取ることのできる統計データに基づいて翻訳されています。その指標・統計データが、現状、各所管課において、ルールがないままバラバラな管理となっており、さらに年度単位でデータが存在していても、過去からの統計データとして整理されておらず、SDGs指標の経過を分析できず、目標を設定できない致命的な課題となっている。
- ・SDGs推進のため町がまず取組むべきこと

SDGs推進の核心は測ること、さらに管理し分析することであり、それができれば必然的にきめ細かい目標設定、よりよい事業設定が期待できる。それには致命的な課題である指標・統計データを一元管理できる仕組みを作る必要があり、現在その入口となる構想のまとめに掛かっている。
- ・次のステップとして

これまでの内容はSDGs推進に係るものではあるが、町の総合計画・総合戦略を推進することと全く共通する。

現在の町の総合計画は、令和元年度を始期として、令和5年度に中間見直しを行う予定であり、それまでに可能な限りデータの管理を確立させ、総合計画の成果指標などをより本質的なものに見直すとともに、SDGs指標を組込んで投資と成果の効果を見える化することができればと考えている。
- ・最終的に目指すもの

SDGsは、目標の達成を義務付けられておらず、目標に向かう状況を創り出すことが何より大切だと言われている。目標に向かう状況は、別海町役場という1つの事業体だけで創り出せるものではなく、むしろ企業・住民の取組が重要であり、それがあって初めて全体最適のSDGs推進となるものではあるが、そのきっかけ作りは、行政の役割であると認識している。例として勉強会や広報によるきっかけづくり、直感的で実質的な普及を目指すのであれば、金融機関を巻き込み官民プロジェクトでSDGs推進事業者登録制度をつくり、その登録事業者がSDGs推進のため実施する事業に対し、低利な借入を起すことができたり、行政であれば公共調達に対する優遇制度や、その他規制緩和を設けたりすることも検討に値するものと考えている。

令和4年第2回総務文教常任委員会 要点記録

	そこまでの将来を見据えるのであるとすれば、町がSDGs未来構想都市を宣言することが、今のこの町には必要なだろうと思う。町が未来都市を宣言するには、明確に目指すものの設定が必要で、その具体的な指標設定も欠かせないとすると、今抱えている課題に戻り、何よりも指標・統計データの管理・分析ができる仕組みづくりが急務であり、そのことを強く認識し、取組を始めているのが現状である。
委員長 7番 木嶋	質疑
委員 一同	なし
委員長 7番 木嶋	13:53 休憩 現地視察先へ移動
	14:04 再開
委員長 7番 木嶋	(2) 総務部所管分令和3年度実施計画事業の成果と今後の取組について
別海消防署長 山田	③高機能指令センター更新事業（現地視察）
別海消防署警防課長 太田	随時質疑応答
委員長 7番 木嶋	閉会挨拶
	14:22 閉会